



CQM(超短期経済予測モデル)

稲田義久(APIR 研究統括)

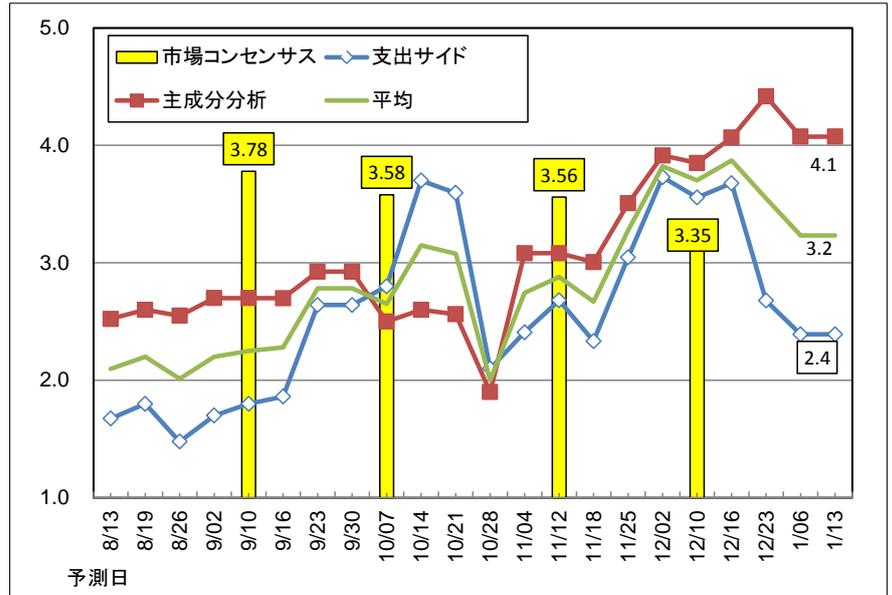
内容に関するお問い合わせは下記まで
e-mail:inada-y@apir.or.jp

日本経済(週次)予測(2014年1月13日)

ポイント

- ▶先週(1/6-1/10)に更新されたデータは、12月の乗用車新車販売台数、財政資金対民間収支、マネタリーベース及び11月の景気動向指数である。
- ▶うち、財政対民間収支は公的在庫品増加の予測に影響を与える。
- ▶12月の乗用車新車販売台数は前年比+26.5%増加し4ヵ月連続のプラス。季節調整値は前月比+9.6%となり、5ヵ月連続のプラスとなった。
- ▶11月の景気動向先行指数は前月比1.0ポイント上昇し、3ヵ月連続の改善。2007年5月以来の高水準となった。消費増税を控えた駆け込み需要の影響もあり、景気先行き期待感は今後しばらく高水準で推移するであろう。
- ▶これらのデータを更新した今週の超短期モデル(支出サイド)は、10-12月期の実質GDP成長率を前期比年率+2.4%と予測する。先週はデータの発表が少なかったため、予測値は横ばいとなった。

CQM 予測の動態：実質 GDP 成長率
2013年10-12月期(%, 前期比年率換算)



<景気の先行き期待感は今後しばらく高水準で推移>

先週(1/6-1/10)に更新されたデータは、12月の乗用車新車販売台数、財政資金対民間収支、マネタリーベース及び11月の景気動向指数である。うち、財政対民間収支(食料安定供給)は公的在庫品増加の予測に影響を与える。

12月の(軽を含む)乗用車新車販売台数は前年比+26.5%増加し35万9,214台。4ヵ月連続のプラス。季節調整値は前月比+9.6%となり、5ヵ月連続のプラスとなった。うち軽乗用車新車販売台数は13万6,035台となり、同+39.3%増加。6ヵ月連続のプラス。その結果、軽乗用車の全体に占めるシェアは37.9%となった。前年比で3.5%ポイント上昇し、2ヵ月連続でシェアが上昇した。

11月の景気動向指数(CI:速報値)は、先行指数が110.8、一致指数が110.5、遅行指数が114.7となった。先行指数は前月比1.0ポイント上昇し、3ヵ月連続の改善。2007年5月以来の高水準となった。消費増税を控えた駆け込み需要の影響もあり、景気先行き期待感は今後しばらく高水準で推移するであろう。一致指数は前月比0.1ポイント上昇し、3ヵ月連続の改善。景気の基調を判断するための、同指数の3ヵ月移動平均は同0.90ポイント上昇し、12ヵ月連続の上昇。7ヵ月移動平均も同0.66ポイント上昇し、10ヵ月連続の上昇となった。この結果、内閣府は景気の基調判断を、7-11月は「改善を示している」と据え置いている。

今週(1/13)の超短期モデル(支出サイド)は、10-12月期の実質GDP成長率を前期比年率+2.4%と予測する。先週はデータの発表が少なかったため、予測値は横ばいとなった。

- ・本レポートは執筆者が情報提供を目的として作成したものであり、当研究所の見解を示すものではありません。
- ・当研究所は、本レポートの正確性、完全性を保証するものではありません。また、本レポートの無断転載を禁じます。
- ・お問い合わせ先：一般財団法人アジア太平洋研究所 contact@apir.or.jp 06-6485-7690